



TITLE:

(総説) 尿石症治療後の再発に就て

AUTHOR(S):

楠, 隆光

CITATION:

楠, 隆光. (総説) 尿石症治療後の再発に就て. 泌尿器科紀要 1956, 2(6): 315-316

ISSUE DATE:

1956-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111170>

RIGHT:

泌 尿 器 科 紀 要

第 2 巻 第 6 号

昭和 31 年 11 月

綜 説

尿石症治療後の再発に就て

新潟大学教授 楠 隆 光

尿石症，特に上部尿路のものの外科的療法後の再発は，直接にレ線検査，膀胱鏡検査並びに尿検査を施行して詳しく検れば，今日でも案外に多い事が Sutherland (1954) 及び Pyrah (1954) によつて報告されている．我国には尿石治療後の再発に関して，多数例に就ての統計的観察がなかつた．昨年度の尿石症研究班の研究の一部として，全国的にその再発を検討することとなつた．そして北は北海道大学から南は鹿児島大学に至る26大学泌尿器科教室から提出された資料によつて，再発に関する全国的統計が得られ，私がその代表者として7月の第44回日本泌尿器科学会総会の席上でそれを発表した．ここにその主な成績を記載する．

I 上部尿石症

(1) 調査症例数 調査された症例の総数は1224例であつたが，そのうちで直接検査例は286例であつた．多発性尿石症の143例(総数の11.7%)を別々に数えると，腎石が 666例であり，尿管石が704例であつた．

第 1 表

治 療 法	症 例 数	%
腎切除術	161	24.2
保存手術	375	56.4
腎切石術	123	19.4
腎盂切石術	203	30.5
腎・腎盂切石術	4	0.6
腎部分切除術	39	5.9
自然排出	14	2.0
不明・放置	116	17.6

(2) 施行された治療法 腎石に対して施行された治療法は，第1表の如くで，腎切除術が24.2%に対して，各種保存手術は56.4%であつた．

尿管石に対して施行された治療法は，第2表の如く，尿管切石術が65.3%と，圧倒的に多かつた．

第 2 表

治 療 法	症 例 数	%
腎切除術	29	4.1
尿管切石術	460	65.3
膀胱内操作	19	2.7
自然排出	107	15.2
不明・放置	89	12.7

(3) 再発 正確を期するために，直接検査の286例に就ての調査の結果は，次の如くであつた．

a) 再発は67例に証明され，再発率は23.4%であつた．そのうち15例(22.4%)が仮性再発であり，52例(77.6%)が真性再発であつた．

b) 再発を治療法別に見ると，第3表の如く，腎切除術後の他側の再発は10%であり，保存手術後の再発は25.4%であつた．腎石に対する保存手術後の再発は，術式の如何を問わず，30%以上の高率であるが，尿管切石術後のそれは14.7%と，比較的低率であつた．

なお治療別によると合計 326例となるから，再発率は20.6%とやや低くなる．

第 3 表

治 療 法	症例数	再発例数	%
腎切除術	40	4	10
保存手術	220	56	25.4
腎部分切除術	20	7	35
腎切石術	38	16	42.1
腎盂切石術	60	18	30
尿管切石術	102	15	14.7
膀胱内操作	11	0	
自然排出	16	1	
手術せず	14	0	
術式不明	20	1	
下部尿石除去	5	5	
合 計	326	67	20.6

c) 他側の再発は 9 例であるのに対して、同側の再発は 43 例であつた。

d) 治療後再発までの期間（真性再発）は、第 4 表の如く、1 年から 3 年までの間に最も多かった。

第 4 表

治療後の期間 (年)	0~1	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	15~16
再発例数	7	14	13	3	4	7	2	0	1	1

e) 再発尿石症と疼痛の有無 仮性再発の 15 例のうち疼痛のあつたものは僅かに 4 例 (26.7%) に過ぎなかつた。真性再発では、52 例中 26 例、即ち 55.8% と、疼痛のあつたものが半ば以上に達した。全体としては、67 例中 33 例 (49.3%) と、疼痛のあつたものは丁度半ばに達した。

Ⅱ 下部尿石症

(1) 調査症例数 調査症例は膀胱石の 415 例及び尿道石の 43 例、合計 458 例であつた。

(2) 施行された治療法 膀胱石の症例に施行された治療法は、第 5 表の如く、膀胱切石術と膀胱碎石術がその大部分を占めていた。

第 5 表

治 療 法	症 例 数	%
膀胱切石術	196	47.2
膀胱碎石術	161	38.8
自然排出	14	3.4
不明	44	10.6

尿道石に対して施行された治療法は、第 6 表の如くであつた。

第 6 表

治 療 法	症 例 数	%
膀胱切石術	6	14.0
鉗子による摘出	16	37.2
外尿道切開術	13	30.2
自然排出	4	9.3
不明	4	9.3

(3) 再発 直接検査の 107 例に就て見ると再発例は 29 例で、再発率は 27.1% であつた。

(4) 術式別に再発率を見ると、第 7 表の如く、大結石で膀胱切石術を要するものでは 40%、中等大の結石で膀胱碎石術を要するものでは 26.8%、そして小結石で異物鉗子による摘出の可能のものでは 20% となつている。

第 7 表

治 療 法	症例数	再発例数	%
膀胱切石術	40	16	40
膀胱碎石術	41	11	26.8
自然排石	3	0	
術式不明	11	0	
異物鉗子による摘出	10	2	20.0
外尿道切開術	2	0	
合 計	107	29	27.1

(5) 再発までの期間 上部尿石症と異り、勿論 1 年未満にやや多いが、可成り後期まで再発が見られている。